



住友ゴム工業株式会社
第135期
第2四半期決算説明会

2026年12月期
2026年1月1日～6月30日

2026年8月6日

TAKING YOU BEYOND

■ 2026年第2四半期決算概要

- 連結範囲の異動、関係会社の状況
- 第2四半期ハイライト、決算概要

■ 2026年度予想

- 決算予想概要
- 設備投資・減価償却・タイヤ生産能力、他
- 株主還元、他

■ 2026年第2四半期決算概要

- 連結範囲の異動、関係会社の状況
- 第2四半期ハイライト、決算概要

■ 2026年度予想

- 決算予想概要
- 設備投資・減価償却・タイヤ生産能力、他
- 株主還元、他

連結範囲の異動

連結子会社 85社 (+1社)

持分法適用会社 3社 (-社)

新規 1社		除外 - 社		新規 - 社		除外 - 社	
タイヤ 	VIADUCTSI, informacijske tehnologije, d.o.o. (スロベニア/その他)						
	スポーツ 						
	産業品他 						

関係会社の状況

	製造会社		販売会社		その他の会社	
タイヤ 	国内	1社	国内	1社	国内	7社
	海外	8社	海外	29社	海外	10社
	アジア・大洋州 4社		アジア・大洋州 7社		アジア・大洋州 2社	
	欧州・アフリカ 2社		欧州・アフリカ 19社		欧州・アフリカ 5社	
スポーツ 	国内	1社	国内	1社	国内	2社
	海外	3社	海外	12社	海外	6社
	タイ、米国、フィリピン		マレーシア、英国、カナダ、オーストラリア、中国、香港、南アフリカ、韓国、タイ、フランス、ドイツ		英国	
産業品他 	国内	－社	国内	3社	国内	－社
	海外	3社	海外	1社	海外	－社
	マレーシア、中国、ベトナム		香港		－	

全**88**社
国内 16社
海外 72社

決算ハイライト

2026年度上期業績（1-6月実績）

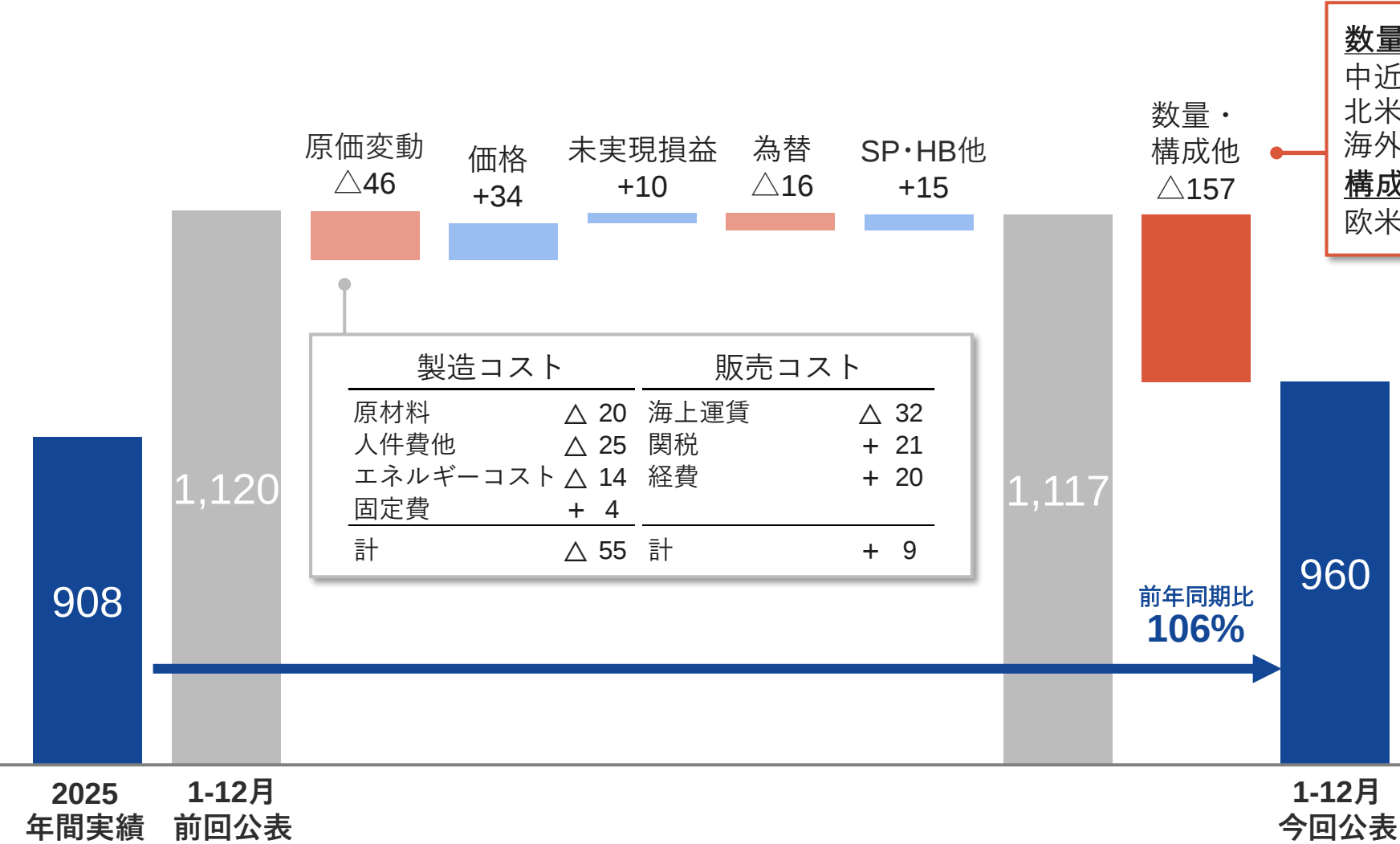
- 売上収益(6,198億円：前年同期比8%増)、タイヤ事業の売上収益(5,344億円：同9%増)は過去最高を更新
 - タイヤ販売本数は前年同期比横ばい、夏商戦でのSYNCHRO WEATHERは好調。為替の円安がプラスに寄与。
- 事業利益(398億円：前年同期比41%増)、タイヤ事業の事業利益(341億円：同54%増)は前回公表を達成
 - 中東情勢不安による原料調達プレミアムの抑制と内部コスト削減施策の効果、スポーツ他の増益も寄与。

2026年度通期業績予想

- 売上収益は(13,300億円：前期比10%増)（前回公表比100億円増） 価格転嫁と為替効果により、前回公表比上振れ
- 事業利益は(960億円：前期比 6%増)（前回公表比160億円減） 数量減・構成悪化等により、前回公表比下振れ
- 年間のタイヤ販売本数は前期比2%増（前回公表比3ポイント減） 市況にあわせて販売目標値を市場ごとに見直し
 - 欧米ともに当社は業界の伸びを上回る販売水準を維持
 - 国内 SYNCHRO WEATHERの増販は順調に推移。高インチは増販で見直し
 - 国内 ICE Pro（6年ぶりに冬タイヤを新発売） 2026年8月から販売開始
 - 欧・米・豪 DUNLOPブランドは販売網の拡大が着実に進展
 - 北米WILDPEAK販売は業界を上回り、主力のWPAT4Wが増販見込みで堅調

2026年度連結事業利益 前回公表時との比較

(億円)



数量 (vs前回公表)	
中近東市販	88%
北米市販	92%
海外新車	95%
構成	
欧米販売減少等による悪化	

主要市場で市況を上回る販売を見込む

数量 (vs前年)		[市況] ^{※1}
中近東市販	83%	-
北米市販	98%	94%
FALKEN ^{※2}	101%	-
特殊要因を除く ^{※3} (101%)		
WILDPEAK ^{※2}	99%	-
特殊要因を除く ^{※3} (98%)		
欧州市販	127%	94%

※1：市況は当社推定
※2：FALKENにWILDPEAKを含む
※3：大手顧客の営業再開に伴う在庫積み上げ等

【国内】SYNCHRO WEATHER 販売好調

夏タイヤとしての認知度向上で、**販売本数は対前年で上期約5倍に拡大**

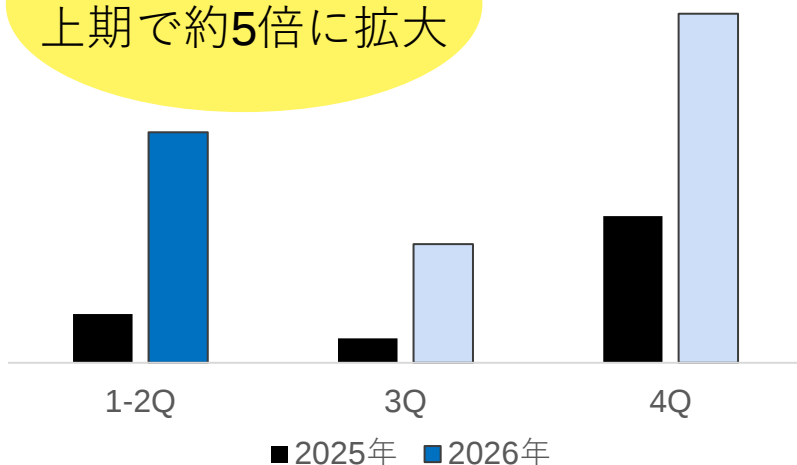
「**行動範囲を広げたい**」方や、「**履き替えストレスから解放されたい**」方を中心に高い評価を得た



国内 SYNCHRO WEATHER 販売本数

販売計画：100万本

前年販売本数から
上期で約5倍に拡大



上期実績

- ✓ 2026年3月に18インチ以上の11サイズを追加、112サイズに拡大。
認定店のさらなる拡大で、オールシーズン市場を席捲
(市場は対前年で約2.4倍※に拡大) ※POSデータ集計結果
- ✓ 高インチカテゴリーでは、計画を上回る販売実績を達成。
売上利益は計画を大幅に上振れ。構成改善に大きく貢献。
- ✓ 夏タイヤとしての機能認知度向上のためCMを展開。



下期取組

- ✓ 上期施策を継続強化し、冬期のSYNCHRO WEATHER拡販に向け、
“氷上も走れるオールシーズンタイヤ”を訴求していく。



2027年度に欧米に展開

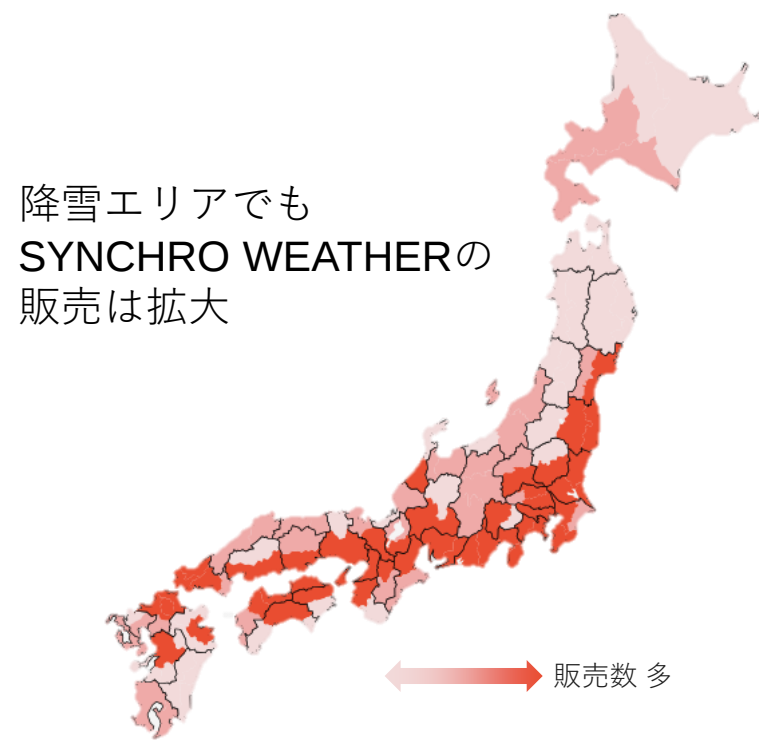
【国内】冬需要期の商品戦略

次世代オールシーズンタイヤのSYNCHRO WEATHERと新商品のICE Proで、それぞれ異なる顧客ニーズに応える。
DUNLOP独自の品揃えで冬需要を広くカバーする。

当社 3 商品の提供価値と顧客ニーズ

	春需要期	冬需要期
SYNCHRO WEATHER 購買層	夏タイヤ 中心の方 ✓万一の雪に備えたい ✓行動範囲を広げたい (オールシーズンタイヤの 潜在ニーズあり)	✓万一の雪に備えたい ✓行動範囲を広げたい ✓スタッドレスタイヤの 費用や保管場所がネック
WINTER MAX03 購買層	✓履き替えに伴う 時間、費用、場所 から解放されたい	✓履き替えの煩雑さから 解放されたい ✓雨天時の不安を払拭
ICEPro 購買層		✓経済性と性能のバランス を重視したい ✓凍結路の走行頻度高い

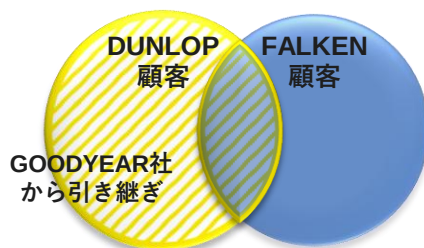
SYNCHRO WEATHER販売地域



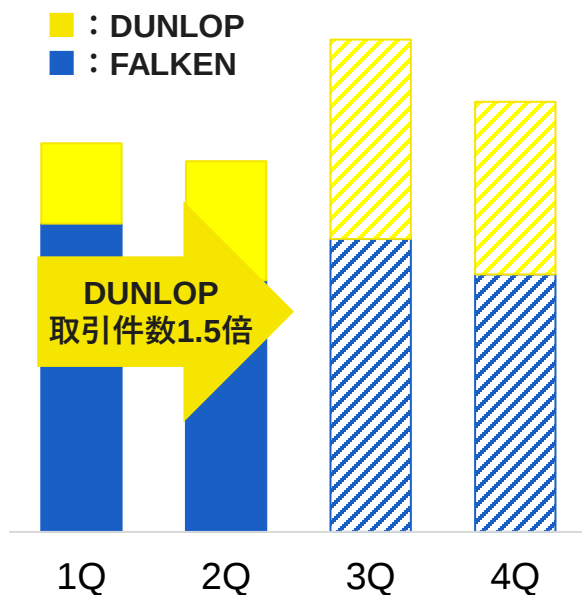
※色分けは販売数の目安になります。

【欧州】 DUNLOP/FALKEN 販売戦略

オフイク品の立ち上げ苦戦等で上期計画を下振れ。年間では市場平均94%を上回る127%の販売を計画。
下期は、Winterタイヤ拡販・値上げ等で収益改善を目指す。



欧州 販売本数
(乗用車用タイヤ ※市販用)



上期実績

- ・ オフイク品は、立ち上げ苦戦もあり計画比77%の販売。
- ・ 一方、**販路拡大は順調に推移**
新規アカウント：1,000件超
イタリア大手卸、スペイン2大卸との戦略提携

- ・ 新商品**"BLUE RESPONSE TG"**が雑誌AMS※1で最高評価
- ・ **ドイツ小売店評価金賞を受賞**



下期取組

- ・ **オフイクへの対策**
- ・ **オペレーション強化/信頼構築**
- ・ **Winterタイヤ**をFALKENで培った**強い販路**で拡販
- ・ 入札ビジネスへの参画
- ・ 値上げ浸透
- ・ BLUE RESPONSE TGを適正価格で販売

取引件数拡大に継続注力
新生DUNLOPをアピール

※1:AMS = 年間50万部・ドイツ第3位のカー雑誌

【北米】 DUNLOP/FALKEN 販売戦略

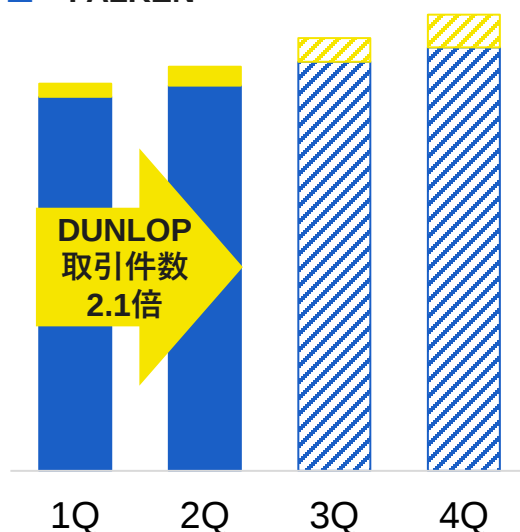
FALKENは収益基盤を守り、上期の業界需要92%は上回る販売を達成（94%）。

DUNLOPは新商品で取扱店を拡大し、北米事業全体の成長を加速させる。



北米 販売本数
(乗用車用タイヤ※市販用)

■ : DUNLOP
■ : FALKEN



需要の下落(前年比)

	上期	特殊要因除く
業界	92%	-
DUNLOP + FALKEN	97%	100%
FALKEN	94%	97%
WILDPEAK	91%	99%



上期実績

- FALKENで業界平均を上回る94%を販売。
- Fanatic販路のD>取扱店、DUNLOP受注件数は大幅拡大
- 大手web小売りの性能評価「Excellent」獲得



BLUE RESPONSE A/S



WILDPEAK A/T4W

下期取組

- BLUE RESPONSE A/S拡販 (8月までに44→80サイズへ拡大)
- WILDPEAKシリーズのREPサイズ拡大 (合計292サイズへ)
- DUNLOP第二弾 新商品：GRANDTREK HLXを年内上市
- 値上げ浸透 (8月より)

2027年度 新商品での成長へ

Project ARKの進捗

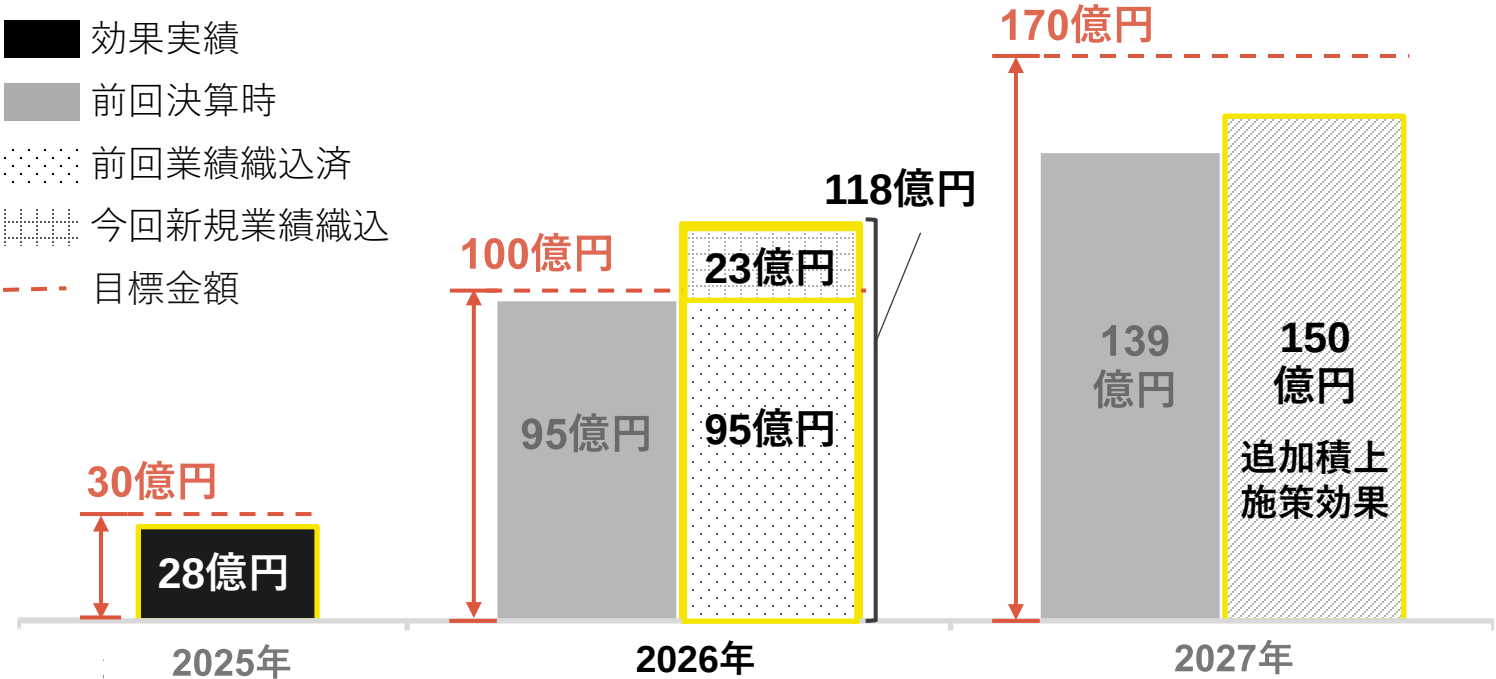
累計300億円の効果創出(2027年末迄)に対し、
295億円の目途付け完了。

施策効果額

(億円)	25年	26年		
		1Q実績	2Q実績	下期 (業績織込済)
タイヤ直接原価	+21	+12	+12	+32
タイヤ固定費	+0	+0	+0	+1
タイヤ経費	+3	+5	+10	+31
スポーツ	+3	+1	+2	+4
産業品他	+2	+1	+2	+4
合計	+28	+20	+25	+72

+118

- 効果実績
- 前回決算時
- ▨ 前回業績織込済
- ▨ 今回新規業績織込
- 目標金額



主な施策・アイデア

子会社、拠点（事務所、倉庫）の事業部を跨ぐ統廃合

TPS*1 米国向けの主力工場である、タイ工場のコストダウン

3年累計 262億円 → **295億円** / 300億円

タイヤ要求予測にAI活用&バーチャル試作で開発リードタイム短縮
 タイヤ軽量化による原材料費削減（市販用新商品で適用中）

*1 TPS：トヨタ生産方式

2026年1-6月 連結業績

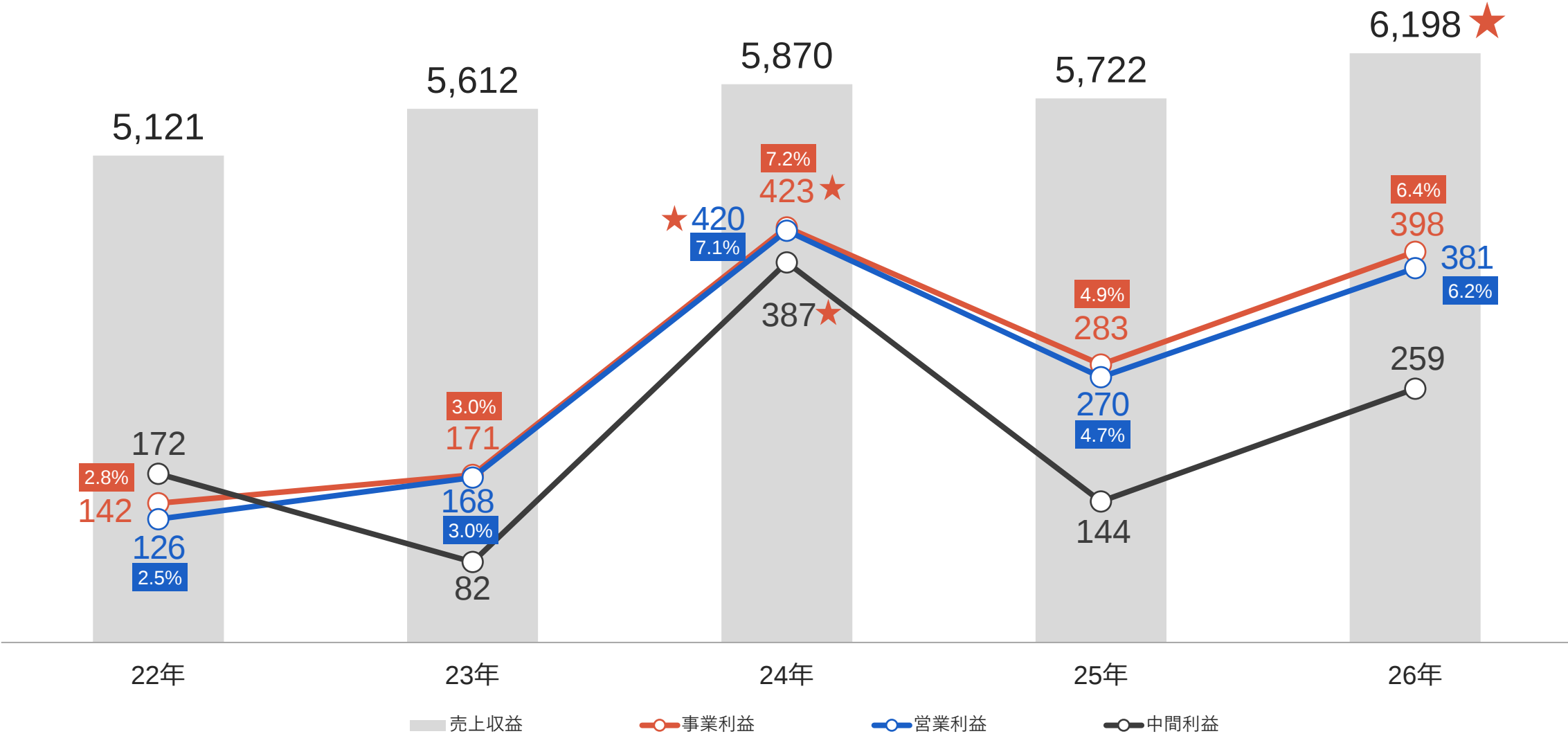
	2026年 1-3月	前年 同期比	2026年 4-6月	前年 同期比	2026年 1-6月	前年 同期比	1Q時予想 2026年 1-6月	前年同期 2025年 1-6月
売上収益	3,022	105% +144	3,176	112% +332	6,198	108% +476	6,200	5,722
事業利益 率 ※1,3	168 5.6%	119% +27	230 7.2%	162% +88	398 6.4%	141% +115	380 6.1%	283 4.9%
営業利益 率 ※3	151 5.0%	122% +27	231 7.3%	157% +84	381 6.2%	141% +111	340 5.5%	270 4.7%
中間利益 ※2,3	86	241% +50	173	160% +65	259	180% +115	200	144

※1. 事業利益：売上収益－(売上原価+販売費及び一般管理費)
※2. 中間利益：親会社の所有者に帰属する四半期・中間利益
※3. 2022年第2四半期より、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に従い、会計上の調整を加えております。

当資料では全頁にわたり上記を適用しております。

1-6月 連結売上収益・利益の推移

単位：億円 %：利益率 ★：過去最高



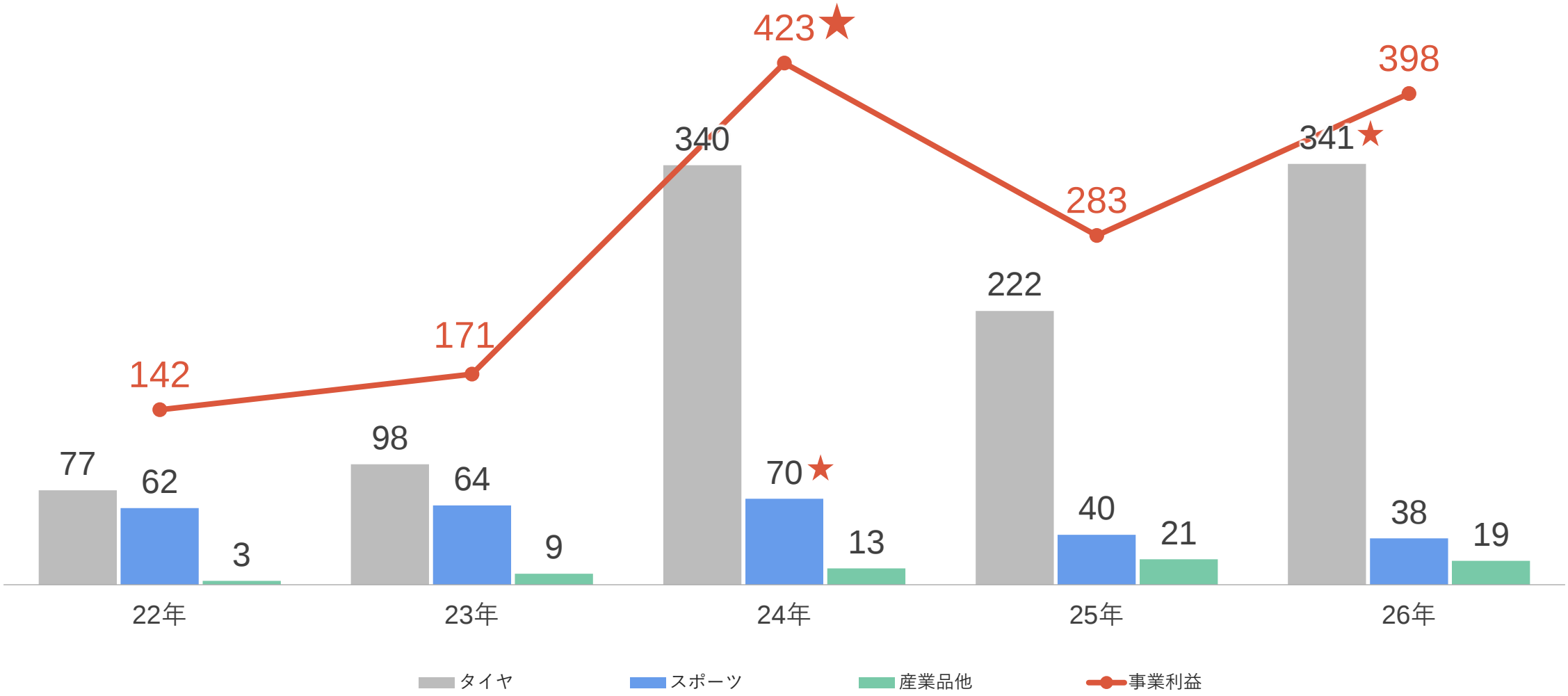
2026年1-6月 セグメント別 連結売上収益・事業利益

		2026年 1-3月	前年 同期比	2026年 4-6月	前年 同期比	2026年 1-6月	前年 同期比	1Q時予想 2026年 1-6月	前年同期 2025年 1-6月	(億円)
売上収益	タイヤ	2,599	106%	2,745	113%	5,344	109%	5,370	4,883	
	スポーツ	322	99%	345	107%	667	103%	655	647	
	産業品他	101	93%	86	103%	187	97%	175	192	
	合計	3,022	105%	3,176	112%	6,198	108%	6,200	5,722	
事業利益	タイヤ	148	135%	194	172%	341	154%	335	222	
	スポーツ	9	53%	28	123%	38	93%	30	40	
	産業品他 ※	11	76%	8	137%	19	94%	15	21	
	合計	168	119%	230	162%	398	141%	380	283	

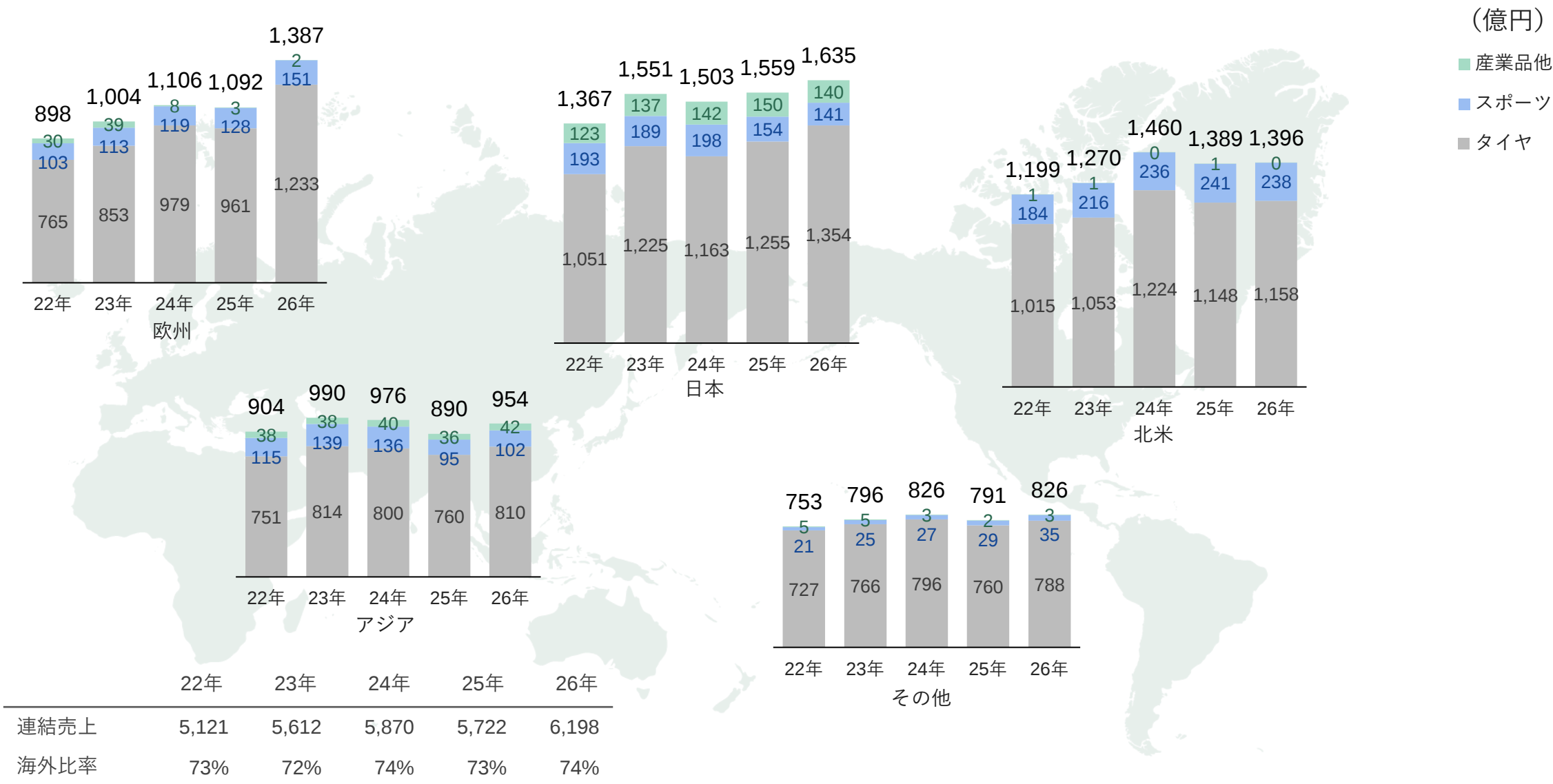
※セグメント間取引消去等が含まれております。

1-6月 事業セグメント別 連結事業利益の推移

★：過去最高
(億円)



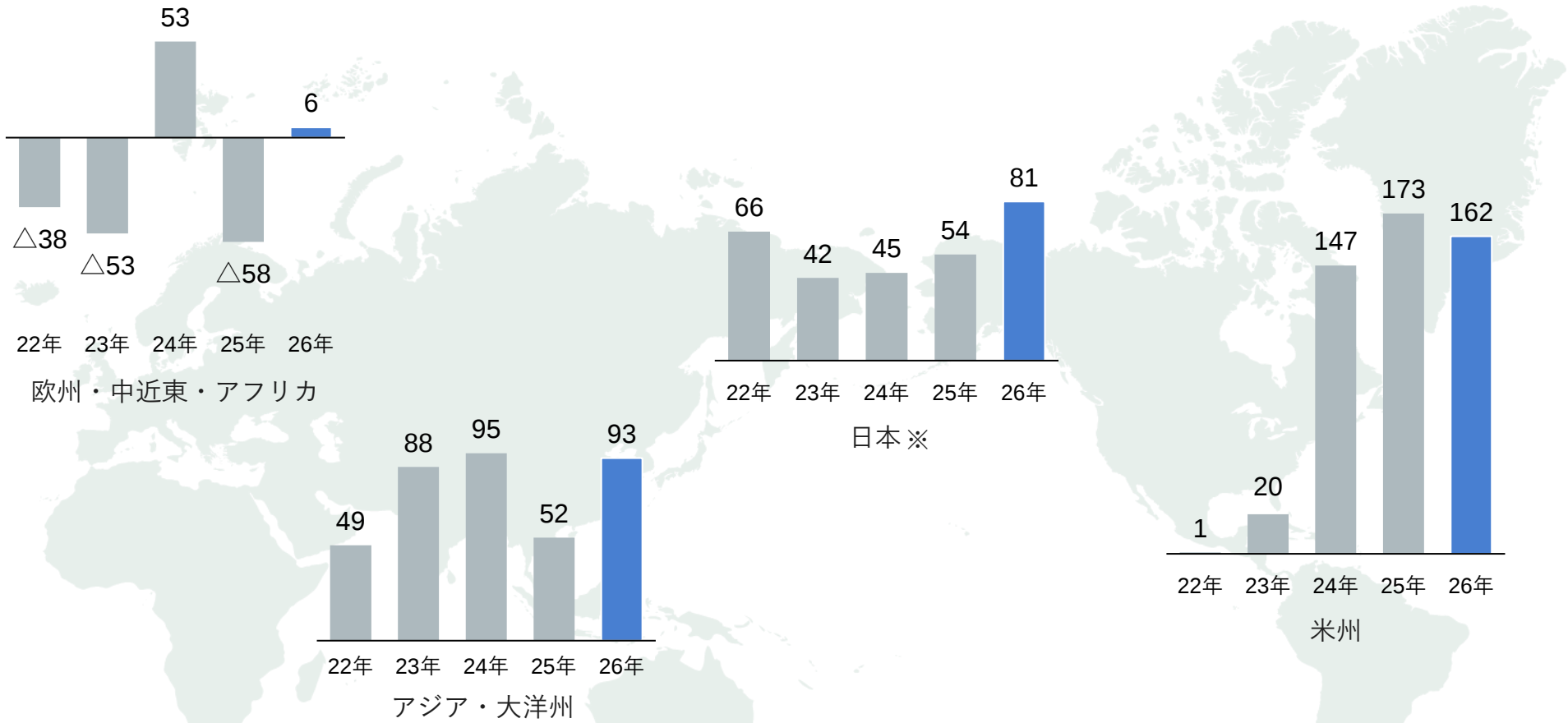
1-6月 仕向地別 連結売上収益の推移



※当ページでの売上は顧客の所在地に基づき、国または地域に区分しております。

1-6月地域別事業利益の推移（タイヤ事業）

（億円）

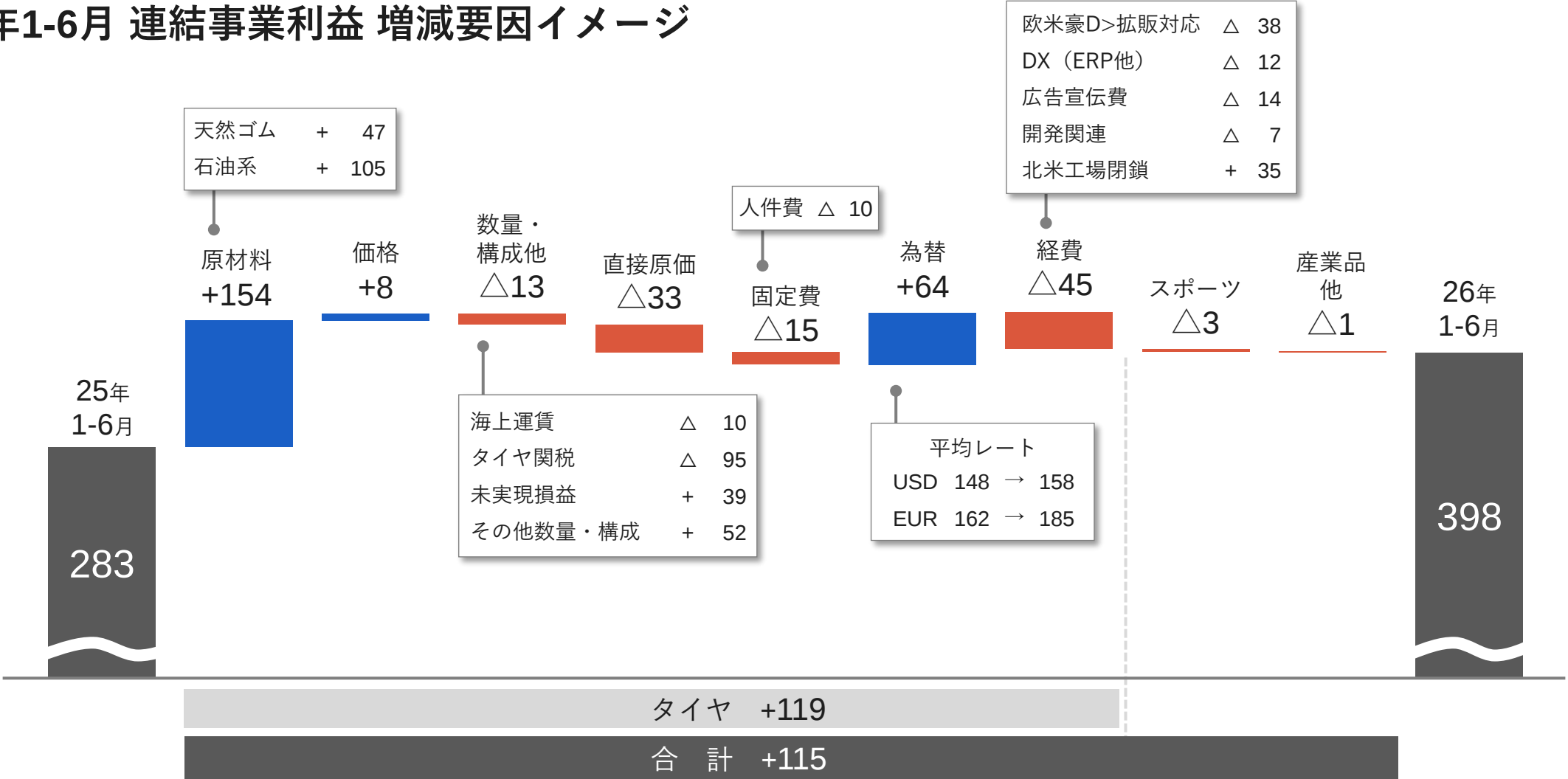


	22年	23年	24年	25年	26年
タイヤ事業利益	77	98	340	222	341
うち海外	11	56	295	168	260
海外比率	14%	57%	87%	76%	76%

※日本からグループ販売会社を通さずに直接輸出販売したものは日本に集計しております。

2026年1-6月 連結事業利益 増減要因イメージ

(億円)



	25年 1-6月	原材料	価格	数量・ 構成他	直接原価	固定費	為替	経費	スポーツ	産業品 他	26年 1-6月	(増減)
1Q時予想	283	+121	+31	△9	△24	△18	+74	△62	△10	△6	380	+97
24年→25年	423	△138	+86	△2	△7	+45	△42	△60	△29	+7	283	△140

連結損益計算書の状況

(億円)	2025年 1-6月	2026年 1-6月	増減
売上収益	5,722	6,198	+476
売上原価	△4,060	△4,256	△196
販売費及び一般管理費	△1,379	△1,544	△165
事業利益	283	① 398	+115
その他の収益	15	② 23	+8
その他の費用	△27	③ △40	△12
営業利益	270	381	+111
金融収益	118	④ 57	△61
金融費用	△189	⑤ △62	+127
持分法による投資利益	1	1	+0
税引前利益	201	377	+177
法人所得税費用	△44	△101	△57
非支配持分	△13	△18	△5
中間利益	144	259	+115

実績の概要

① 事業利益

詳細はP. 6～7, 13～19参照

② その他の収益

その他営業外収益

実績内訳
19億円

対前年増減
+6億円

③ その他の費用

その他営業外費用
固定資産除売却損
北米構造改革事業

△22億円
△7億円
△7億円

△6億円
+2億円
△10億円

④ 金融収益

正味貨幣持高に係る利得
受取利息

38億円
15億円

△60億円
+0億円

⑤ 金融費用

支払利息
為替差損

△43億円
△15億円

△8億円
+126億円

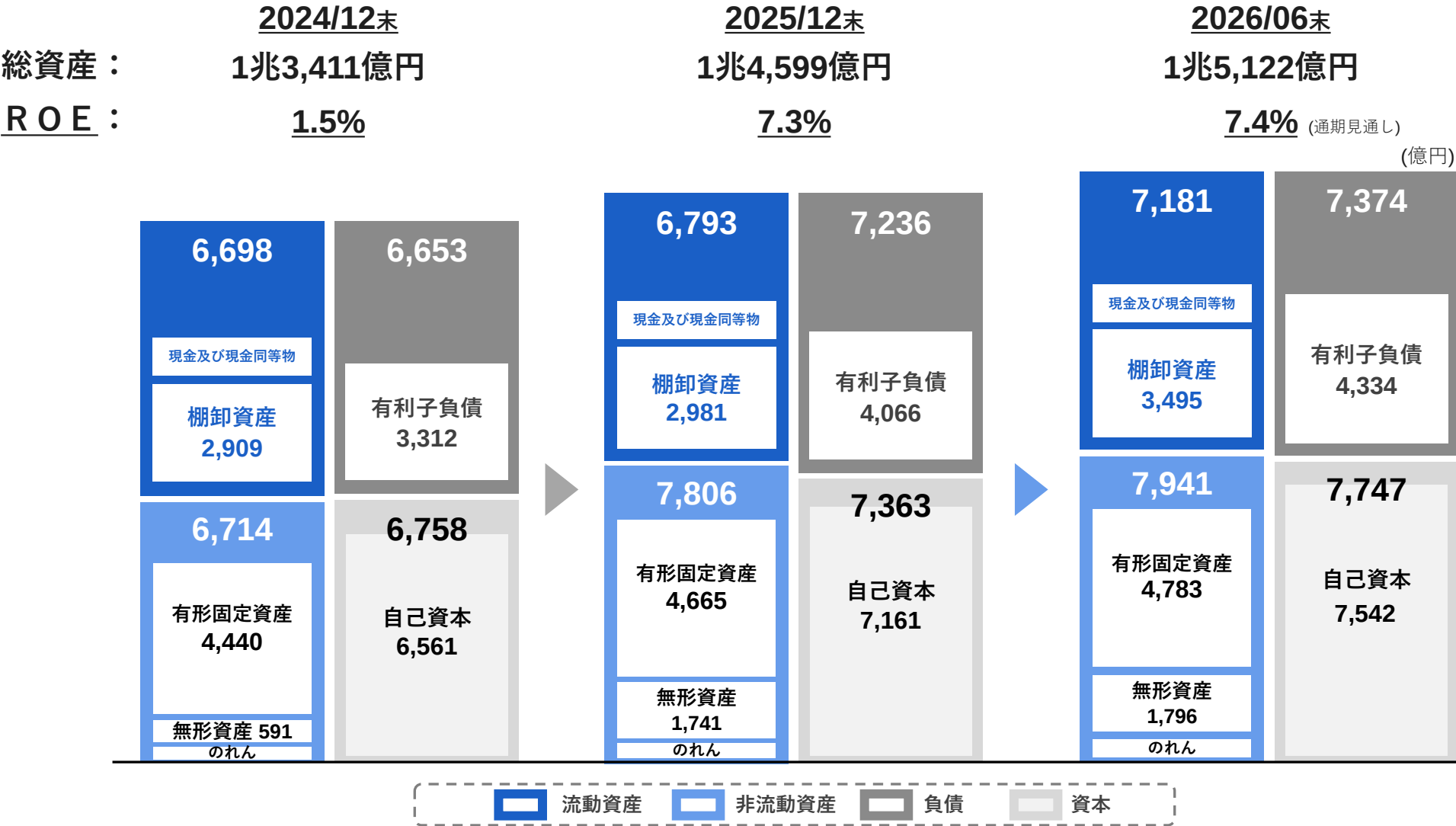
連結バランスシートの状況

(億円)	前期実績 2025/12末	当期実績 2026/06末	増減
流動資産	6,793	7,181	① +388
非流動資産	7,806	7,941	② +135
資産合計	14,599	15,122	+522
流動負債	3,799	4,048	+249
非流動負債	3,437	3,326	△111
負債合計	7,236	7,374	③ +138
自己資本	7,161	7,542	④ +382
非支配持分	202	205	+3
資本合計	7,363	7,747	+384
負債及び資本合計	14,599	15,122	+522
自己資本比率	49.0%	49.9%	+0.9P

主な増減要因	
① 流動資産	対前期末増減
棚卸資産	+514億円
その他の流動資産	△104億円
営業債権及びその他の債権	△20億円
② 非流動資産	
有形固定資産	+119億円
無形資産（のれん含）	+66億円
繰延税金資産	△70億円
③ 負債合計	
社債及び借入金	+257億円
その他の流動負債	+35億円
繰延税金負債	△118億円
未払法人所得税	△45億円
④ 自己資本	
四半期利益	+259億円
為替換算調整額	+228億円
配当支払	△110億円
有利子負債	+268億円
	(4,066 → 4,334)

連結バランスシートの推移

▶ 資本構成を見直しながら、資本効率改善に取り組む



■ 2026年第2四半期決算概要

- 連結範囲の異動、関係会社の状況
- 第2四半期ハイライト、決算概要

■ 2026年度予想

- 決算予想概要
- 設備投資・減価償却・タイヤ生産能力、他
- 株主還元、他

2026年度 連結業績予想

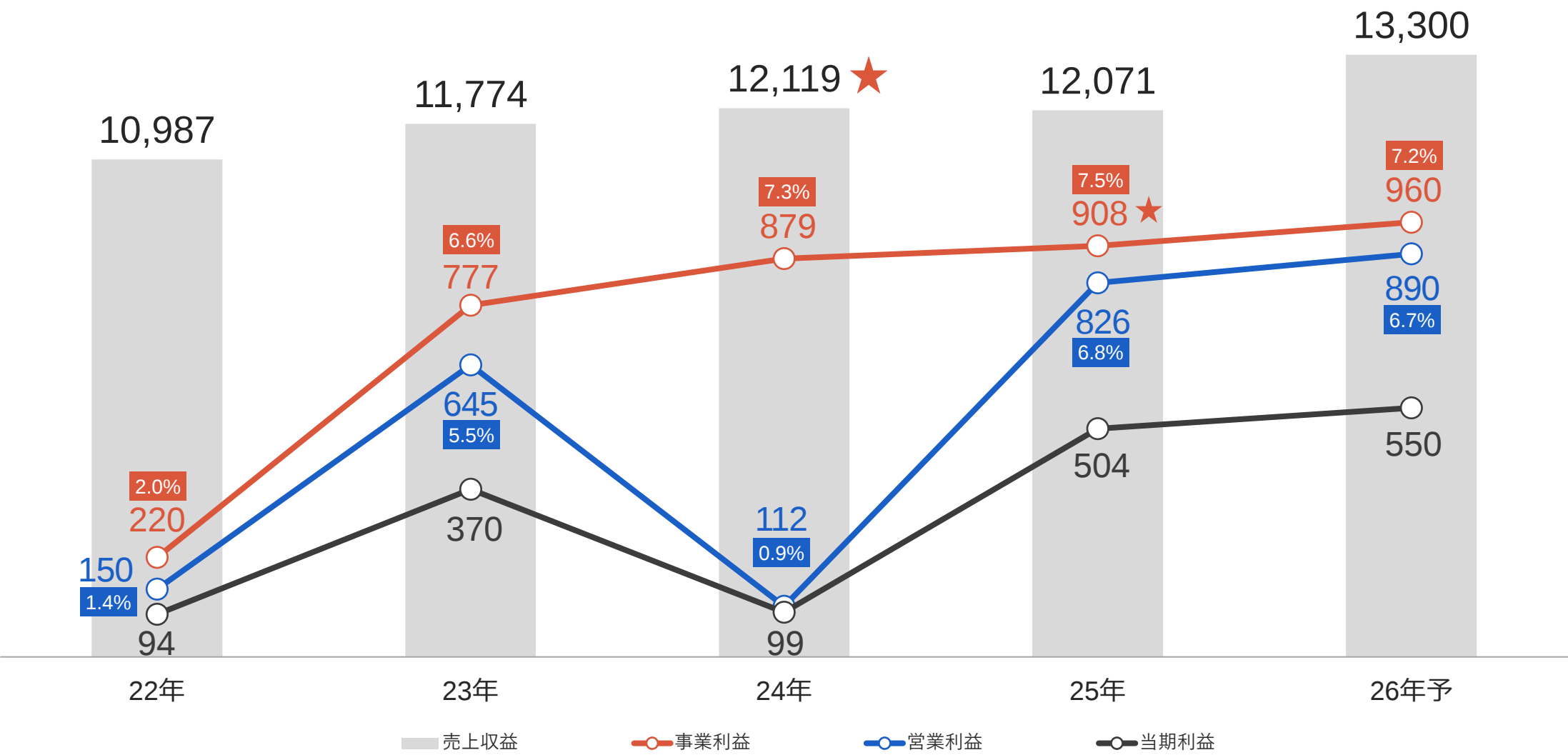
(億円)

	今回予想 2026年	前期実績 2025年	前期比	1Q時予想 2026年	今回予想 2026年 7-12月	前年 同期比
売上収益	13,300	12,071	110%	13,200	7,102	112%
事業利益 率	960 7.2%	908 7.5%	106%	1,120 8.5%	562 7.9%	90%
営業利益 率	890 6.7%	826 6.8%	108%	1,000 7.6%	510 7.2%	92%
当期利益	550	504	109%	550	293	81%
ROIC ※1	5.8%	6.2%		6.9%		
ROE	7.4%	7.3%		7.5%		
ROA ※2	6.3%	6.5%		7.5%		
D/E Ratio	0.6	0.6		0.6		

※1. ROIC : 「税引後事業利益」 ÷ 「投下資本」
※2. ROA : 「事業利益」 ÷ 「総資産」

年間連結売上収益・利益の推移

単位：億円 %：利益率 ★：過去最高



2026年度 セグメント別 連結売上収益・事業利益予想

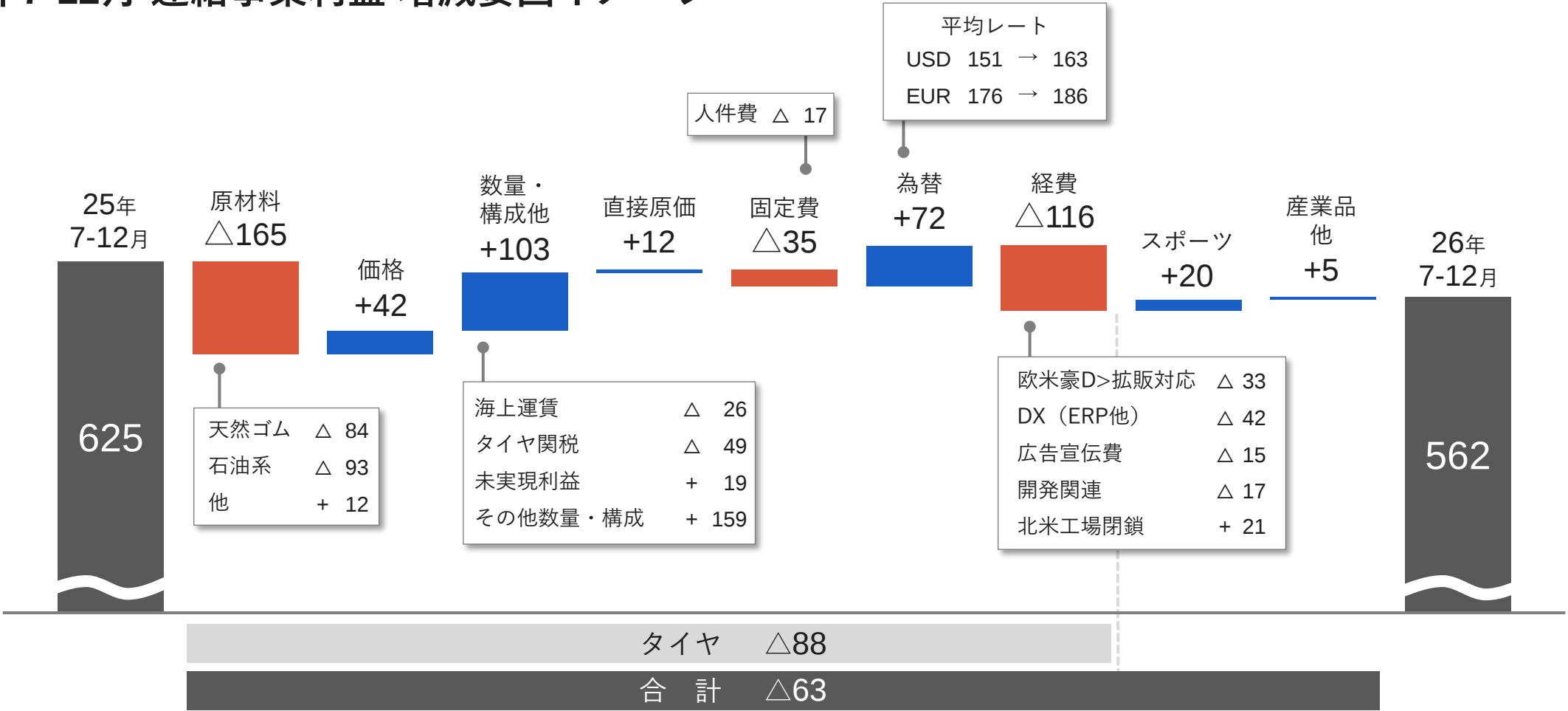
(億円)

		今回予想 2026年	前期実績 2025年	前期比	1Q時予想 2026年	今回予想 2026年 7-12月	前年 同期比
売上収益	タイヤ	11,610	10,437	111%	11,545	6,266	113%
	スポーツ	1,310	1,256	104%	1,275	643	106%
	産業品他	380	378	101%	380	193	104%
	合計	13,300	12,071	110%	13,200	7,102	112%
事業利益	タイヤ	830	798	104%	1,005	489	85%
	スポーツ	85	68	124%	70	47	170%
	産業品他※	45	41	109%	45	26	123%
	合計	960	908	106%	1,120	562	90%

※セグメント間取引消去等が含まれております。

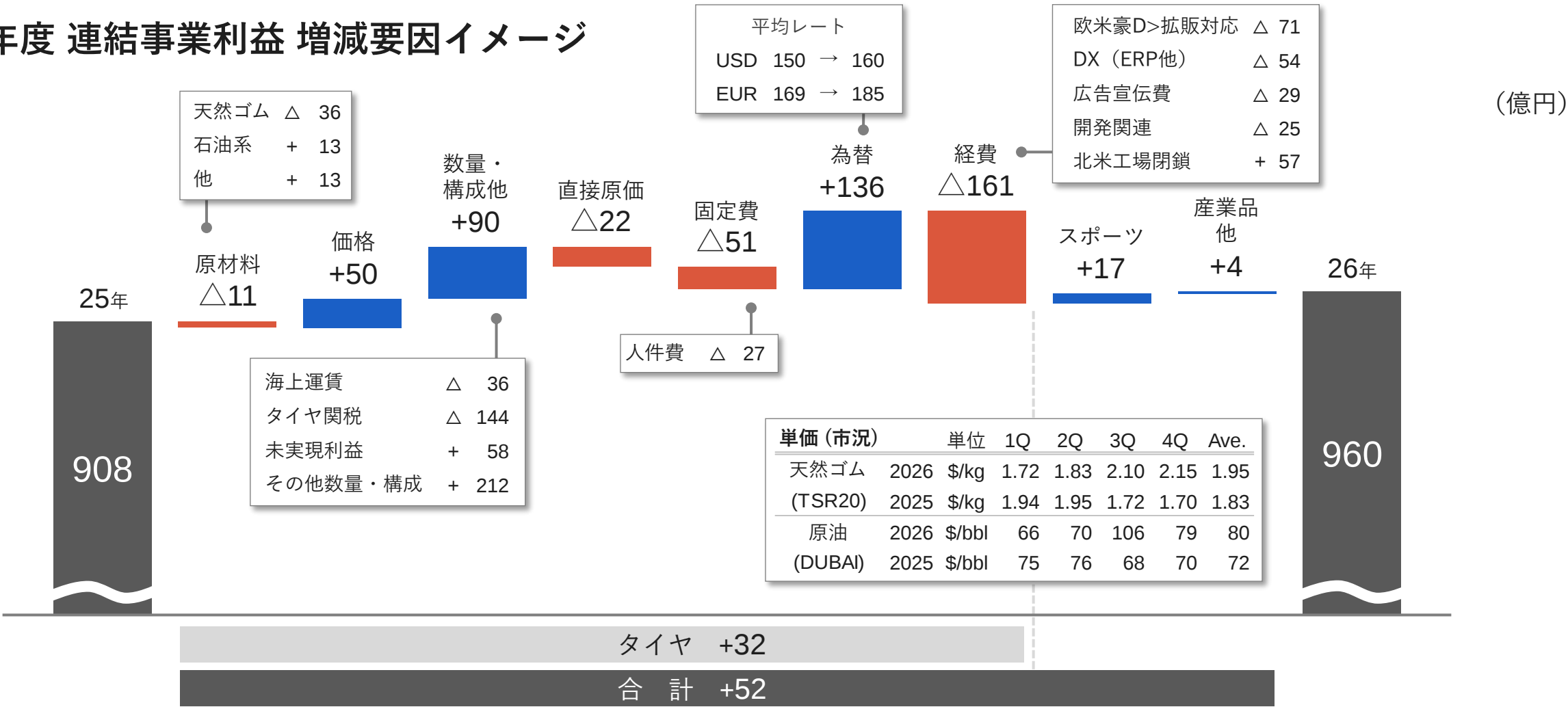
2026年7-12月 連結事業利益 増減要因イメージ

(億円)



	25年 7-12月	原材料	価格	数量・ 構成他	直接原価	固定費	為替	経費	スポーツ	産業品 他	26年 7-12月	(対前年)
1Q時予想	625	$\Delta 112$	$\Delta 15$	$+257$	$+41$	$\Delta 37$	$+78$	$\Delta 118$	$+12$	$+10$	740	$+115$
2Q時予想	625	$\Delta 165$	$+42$	$+103$	$+12$	$\Delta 35$	$+72$	$\Delta 116$	$+20$	$+5$	562	$\Delta 63$
(差異)	$+0$	$\Delta 53$	$+57$	$\Delta 154$	$\Delta 29$	$+2$	$\Delta 6$	$+2$	$+8$	$\Delta 5$	$\Delta 178$	$\Delta 178$

2026年度 連結事業利益 増減要因イメージ



	25年 1-12月	原材料	価格	数量・ 構成他	直接原価	固定費	為替	経費	スポーツ	産業品 他	26年 1-12月	(対前年)
1Q時予想	908	+9	+16	+248	+17	Δ 55	+152	Δ 180	+2	+4	1,120	+212
2Q時予想	908	Δ 11	+50	+90	Δ 22	Δ 51	+136	Δ 161	+17	+4	960	+52
(差異)	+0	Δ 20	+34	Δ 158	Δ 39	+4	Δ 16	+20	+15	Δ 0	Δ 160	Δ 160

連結事業利益 増減要因の推移

(億円)

期間		事業利益		増減要因								
				原材料	価格	数量・ 構成他	直接 原価	固定費	為替	経費	スポーツ	産業品 他
25年	1-3月	141	△91	△88	+28	+15	△6	+20	△15	△28	△25	+8
	4-6月	142	△49	△50	+58	△17	△1	+25	△27	△31	△4	△0
	7-12月	625	+168	+131	+167	△251	+49	+25	+33	+0	+19	△5
	前期	908	+28	△7	+253	△253	+42	+70	△9	△60	△10	+2
26年	1-3月	168	+27	+100	+33	△77	△17	△3	+25	△23	△8	△3
	4-6月	230	+88	+54	△25	+64	△16	△12	+39	△22	+5	+2
	7-12月	562	△63	△165	+42	+103	+12	△35	+72	△116	+20	+5
	当期	960	+52	△11	+50	+90	△22	△51	+136	△161	+17	+4
1Q時予想との差			△160	△20	+34	△158	△39	+4	△16	+20	+15	△0

タイヤ販売本数 前年同期比推移

対前年		2025年実績					2026年1-6月実績、7-12月予想					2026年1Q時予想				
		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	年間	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	年間	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	年間
国内新車		120%	104%	98%	102%	105%	107%	99%	107%	100%	103%	107%	98%	107%	100%	103%
国内市販		96%	91%	98%	93%	94%	96%	108%	98%	99%	100%	96%	103%	97%	102%	99%
海外新車		91%	92%	92%	87%	90%	97%	97%	95%	98%	97%	103%	100%	107%	102%	
海外市販		94%	96%	90%	92%	93%	96%	103%	114%	107%	105%	96%	109%	119%	114%	110%
海外市販内訳	北米	83%	97%	81%	87%	87%	89%	92%	104%	109%	98%	89%	97%	120%	124%	107%
	欧州	97%	90%	108%	98%	98%	113%	127%	135%	135%	127%	113%	143%	137%	134%	131%
	アジア	104%	95%	89%	96%	96%	98%	103%	113%	90%	101%	98%	104%	110%	100%	103%
	その他	94%	100%	86%	90%	92%	81%	92%	103%	95%	93%	81%	97%	111%	100%	98%
計		97%	95%	93%	93%	94%	97%	102%	107%	103%	102%	97%	106%	110%	108%	105%
合計本数（万本）		2,385	2,369	2,421	2,580	9,756	2,322	2,425	2,587	2,651	9,985	2,322	2,503	2,669	2,792	10,286

カテゴリ別タイヤ販売本数 前年同期比

対前年同期	2025年1-6月実績				2025年1-12月実績			
	新車	市販	計	構成比	新車	市販	計	構成比
乗用車用	99%	95%	96%	88%	96%	94%	94%	88%
うちプレミアムタイヤ※	102%	98%	99%	45%	99%	95%	97%	47%
トラック・バス用	106%	96%	97%	3%	112%	93%	95%	4%
二輪・産業用他	101%	97%	99%	9%	96%	91%	93%	8%
合計	100%	95%	96%	100%	97%	93%	94%	100%

対前年同期	2026年1-6月実績				2026年1-12月予想			
	新車	市販	計	構成比	新車	市販	計	構成比
乗用車用	100%	100%	100%	88%	100%	104%	103%	88%
うちプレミアムタイヤ	100%	105%	103%	47%	104%	111%	109%	50%
トラック・バス用	102%	93%	94%	3%	89%	97%	96%	3%
二輪・産業用他	96%	95%	95%	9%	95%	100%	98%	8%
合計	100%	99%	99%	100%	100%	104%	102%	100%

年度別プレミアムタイヤ構成比率推移

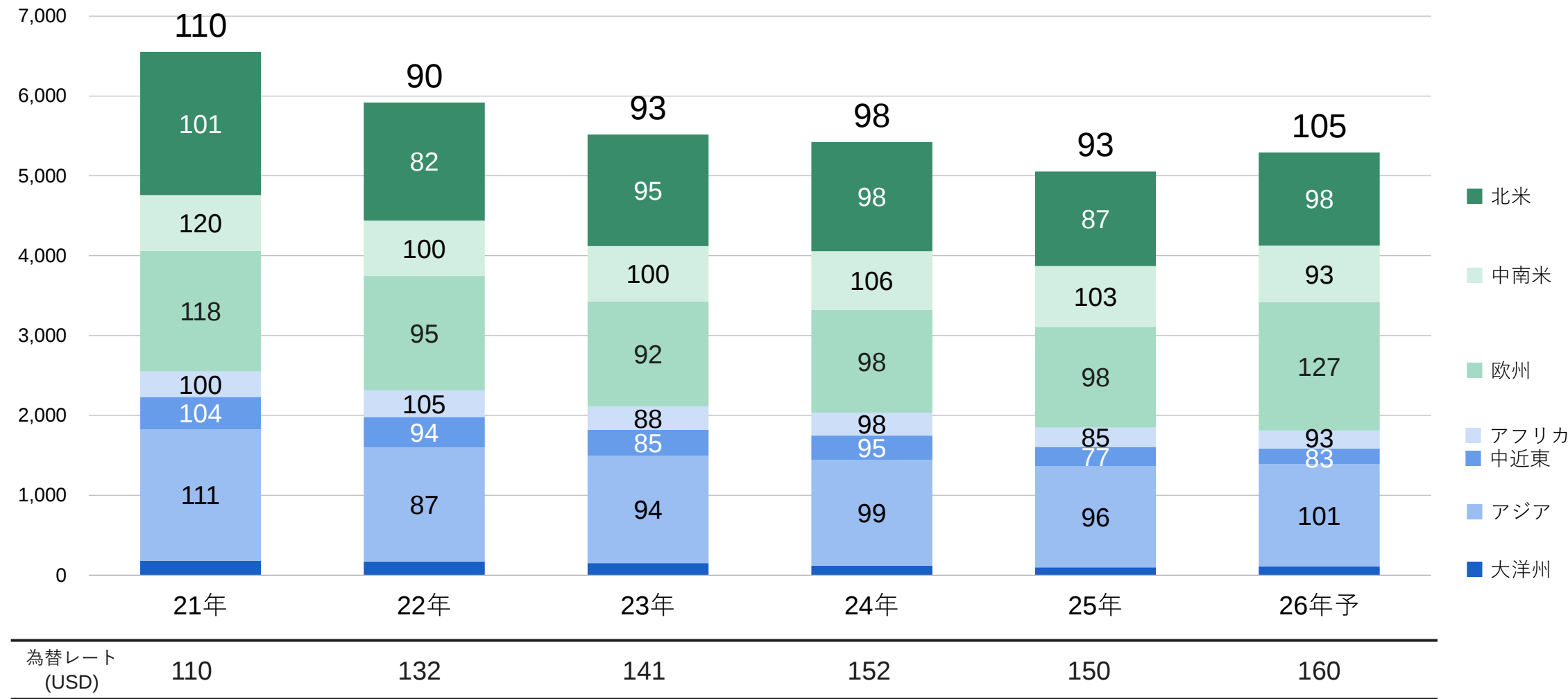
	プレミアムタイヤ		
	新車	市販	計
24年実績	56%	42%	46%
25年実績	57%	44%	47%
26年予想	59%	46%	50%

※ プレミアムタイヤ
差別化商品（SYNCHRO WEATHER、WILDPEAK、欧州オールシーズンタイヤ、冬タイヤなど）、SUV用タイヤ及び18インチ以上の乗用車用タイヤ

タイヤ海外市販 年間販売本数 地域別推移

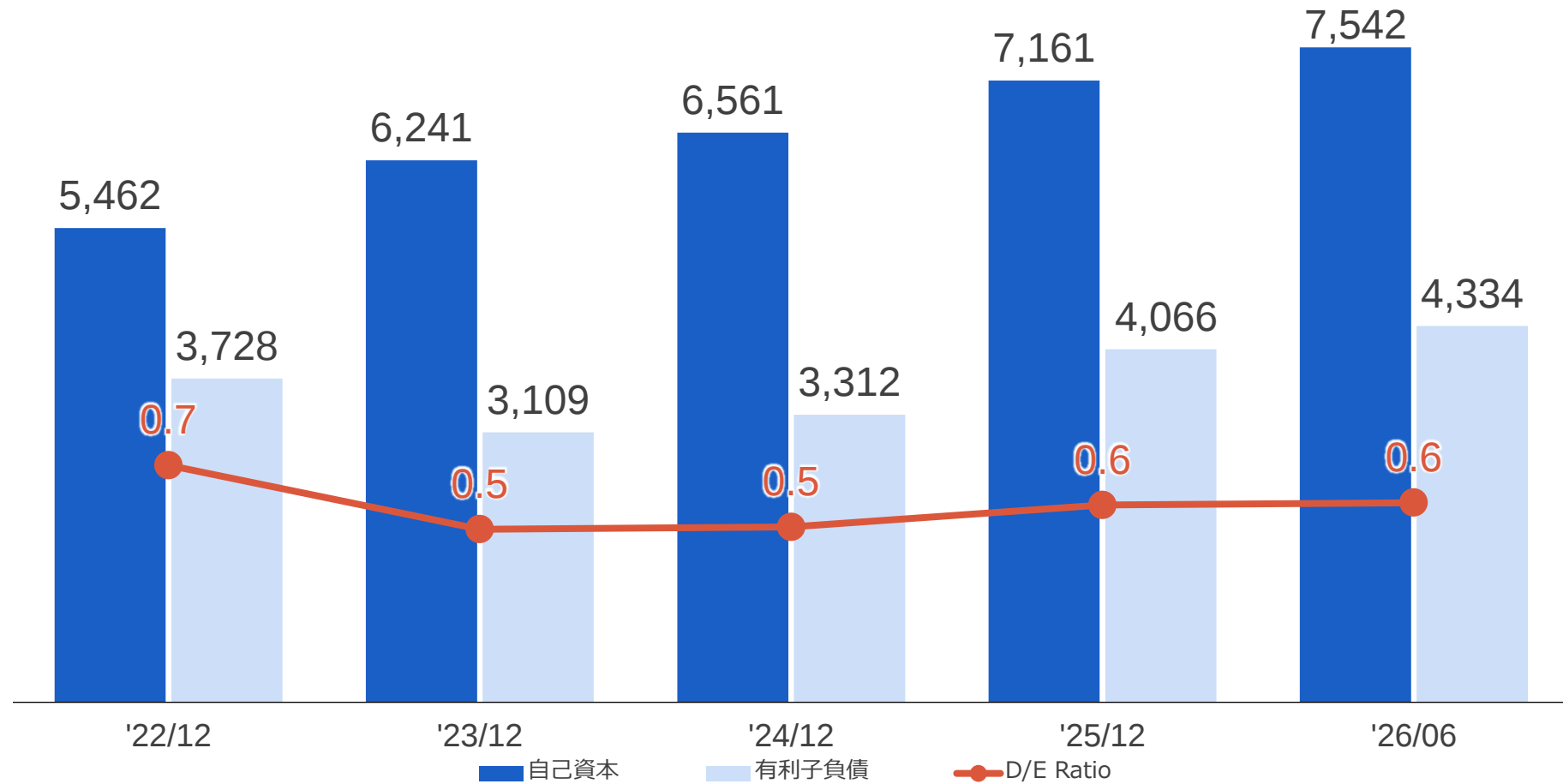
単位：万本

※グラフ内の数字は地域ごとの前年比（%）を示しております。



自己資本、有利子負債の推移

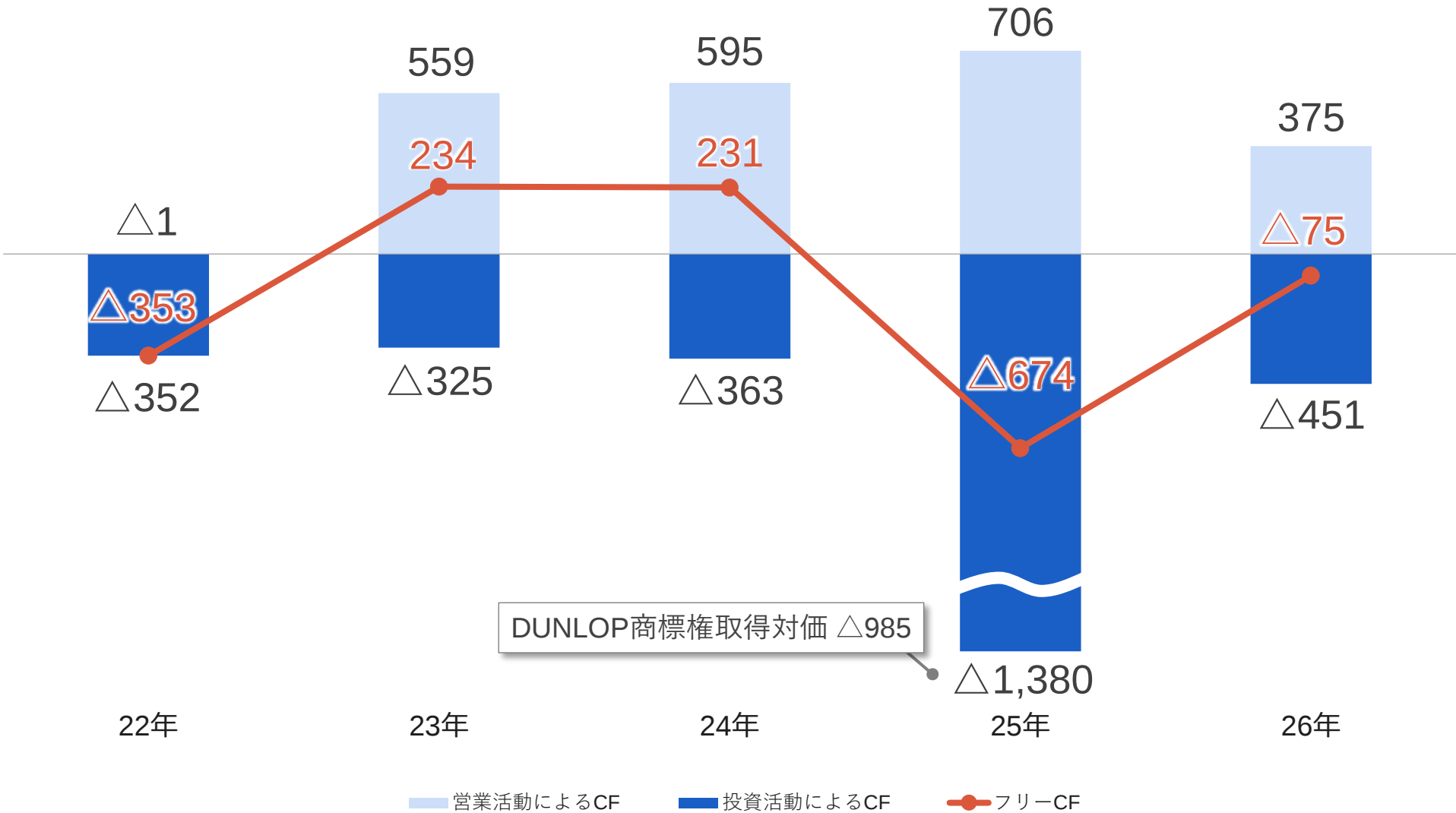
(億円)



自己資本比率	44.6%	49.3%	48.9%	49.0%	49.9%
--------	-------	-------	-------	-------	-------

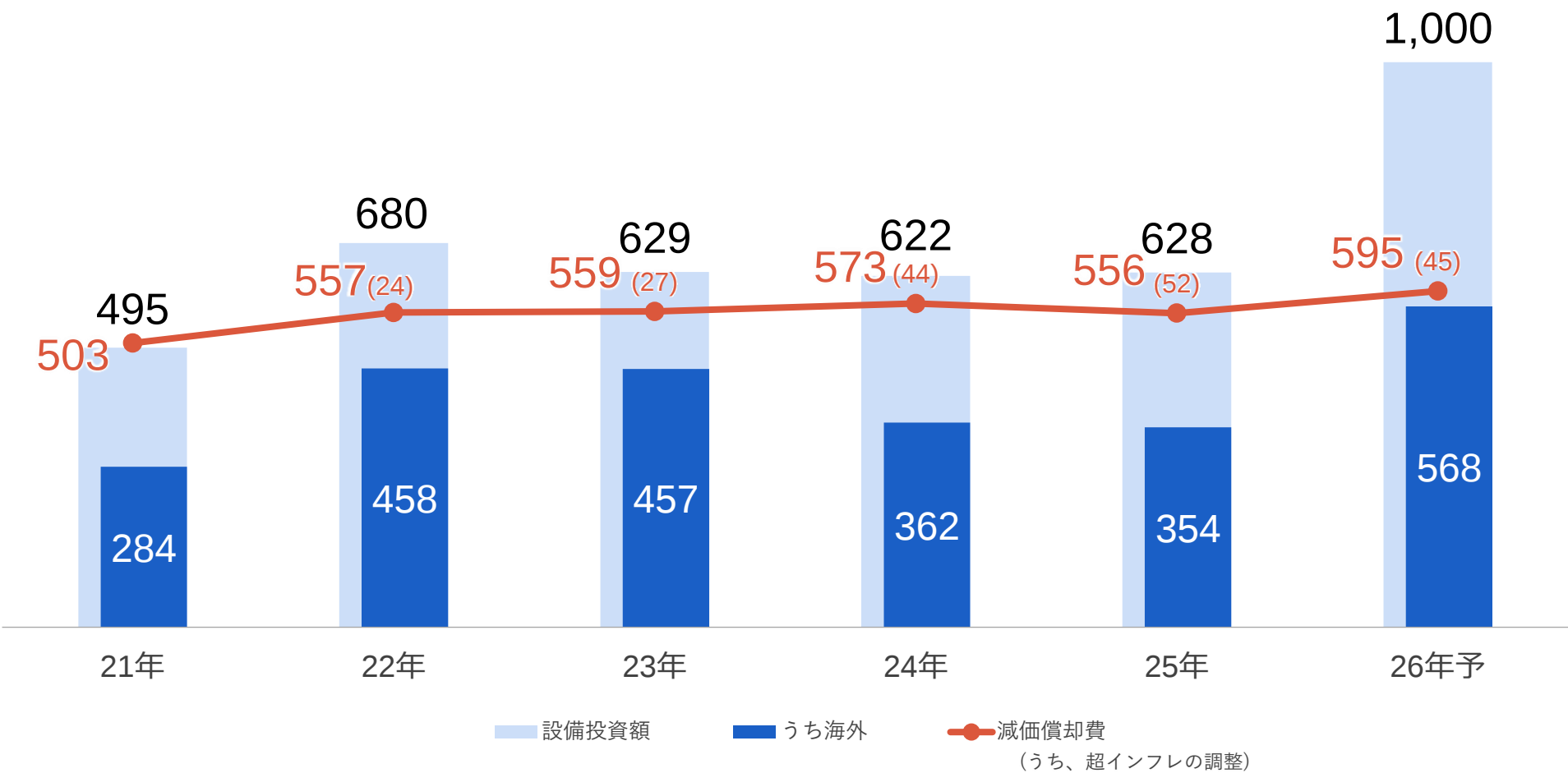
1-6月 キャッシュ・フローの推移

(億円)



年間設備投資額、減価償却費（有形）の推移

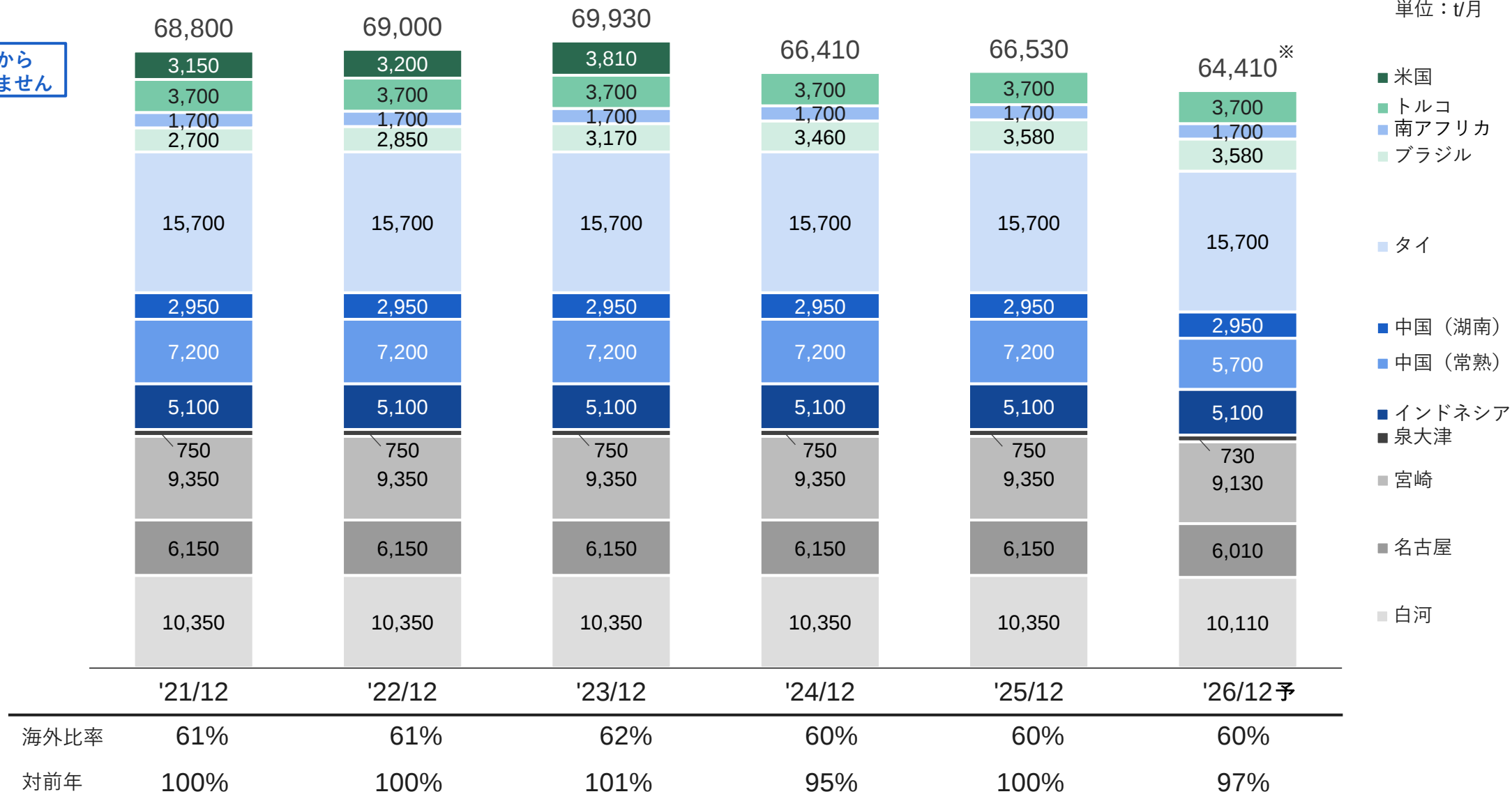
（億円）



タイヤ生産能力の推移

年初予想から
変更ありません

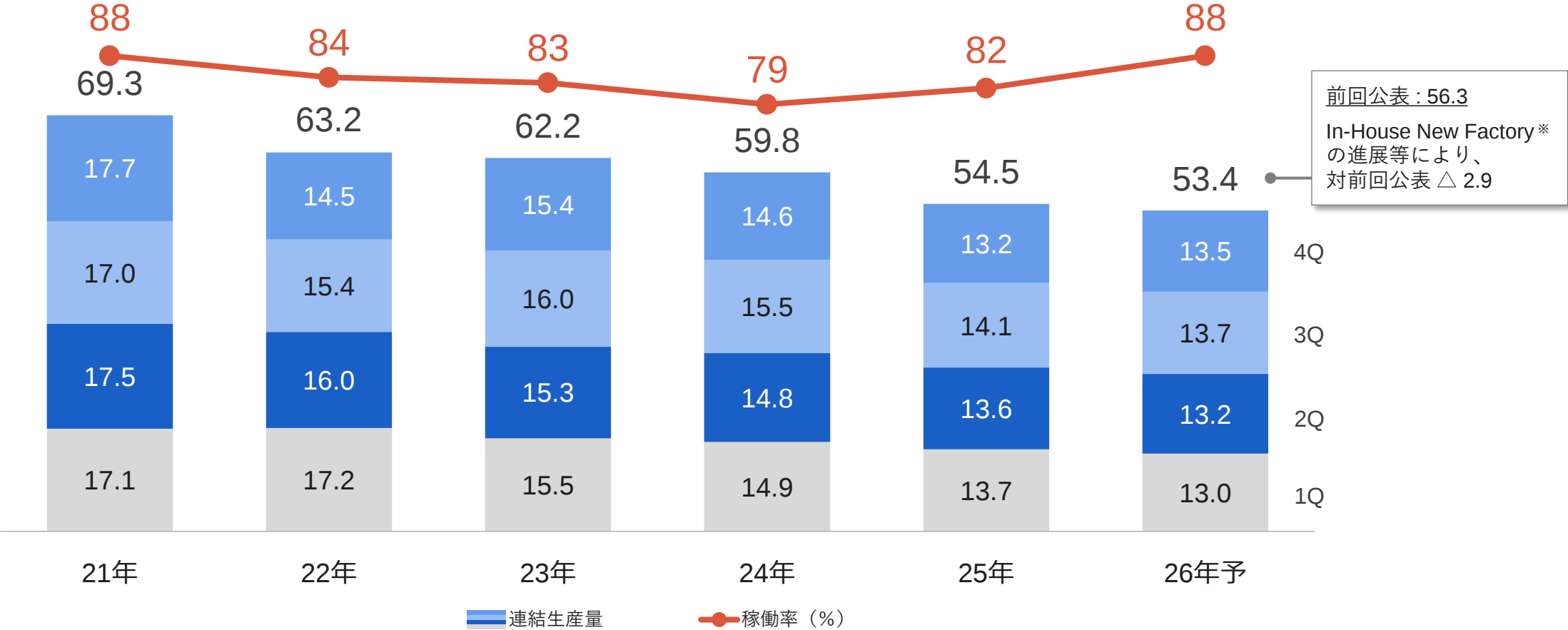
単位：t/月



※稼働日数の変更に伴い、国内各工場の生産能力を見直しております。

年間タイヤ設備稼働率、生産量の推移

単位：万t



海外比率	63%	63%	64%	64%	64%	63%
対前年	117%	91%	98%	96%	91%	98%

※ 既存の生産拠点の一部を最新鋭の生産設備にリニューアルするコンセプト。拠点全体の操業を止めることなく、最新鋭の生産設備への移行が可能。

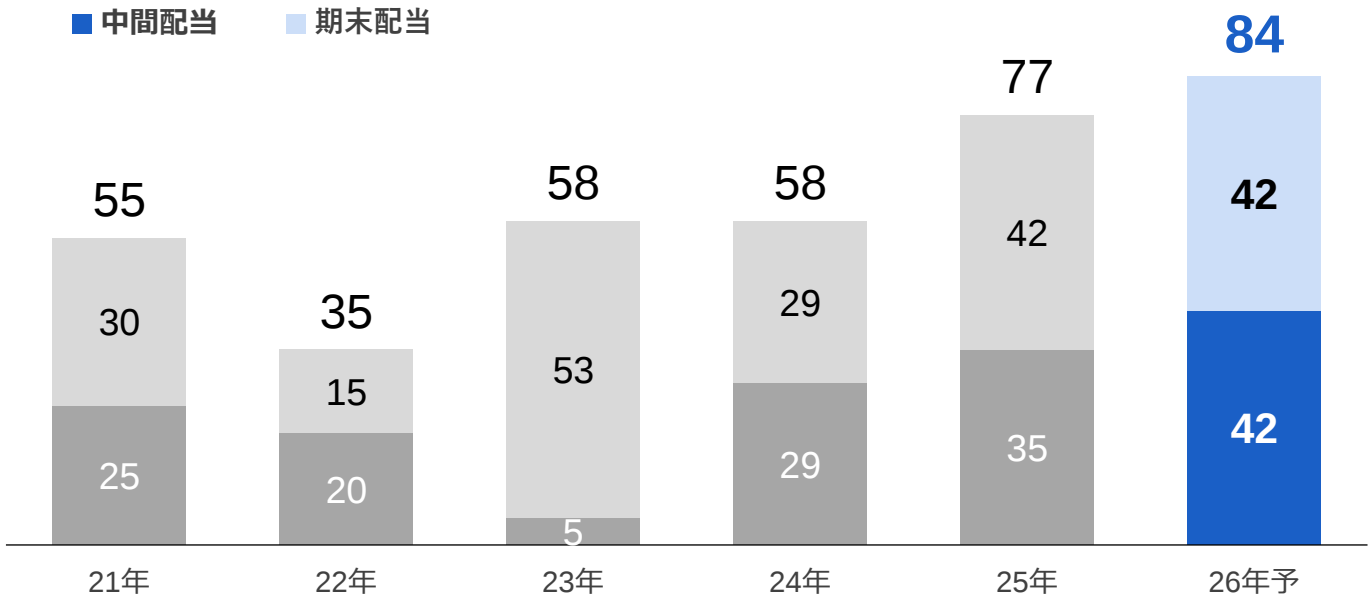
株主還元

当社は株主への利益還元を最重要課題と認識し、2026年より連結配当性向40%以上・DOE 3%以上を基準に、業績の見通し、内部留保の水準等を総合的に判断しながら、長期にわたり安定して株主に報いることを基本方針としております。

2026年中間配当の決定および年間配当予想について：

2026年第2四半期実績に基づき、1株当たり中間配当金を42円（年初予想から変更無）とすることを決定いたしました。
期末配当金についても年初予想の42円を据え置きとし、年間配当金は84円となる予定です。

年初予想から
変更ありません



（参考）配当性向・DOEの推移 (%)

配当性向	49.1	/	97.8	/	41.2	/	154.6	/	40.2
DOE	3.0	/	1.8	/	2.6	/	2.4	/	3.0

40.1%
3.1%

※ DOE = 配当総額 ÷ 自己資本
※ 2025年度以前のDOEは参考

DUNLOP



SYNCHRO WEATHER

路面状態でゴムの性質
が変化する新技術「ア
クティブトレッド」搭
載の次世代オールシー
ズンタイヤ

DUNLOP



WINTER MAXX ICE Pro

WINTER MAXX新シリーズ、
氷と相反する一部の性能を
犠牲にして、氷上に振り切っ
たスタッドレス

DUNLOP



GRANDTREK R/T⁰¹

耐久性・走破性に加え、
カスタムも楽しめる
DUNLOP初のラギッ
ドトレーンタイヤ

SRIXON®



ZXi RKT

ロケットのようなボー
ルスピードと高い直進
性を追求した「スリク
ソン ZXi RKT」

※9月12日発売予定

サステナビリティ経営の推進

直近の取り組み 詳細は弊社ウェブサイトからニュースリリースをご参照ください。(https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2026/)

2026

- 6月 – DUNLOPグループ「人権レポート2026」を発行
DUNLOPグループ「統合報告書2026」を発行 ～長期経営戦略の実現に向けて、財務・非財務の両側面から報告～
(株)ダンロップゴルフクラブが「くるみん認定」を取得 ～子育てと仕事の両立を支援～
- 4月 – 神戸市、公益財団法人森林文化協会と自然共生サイトの里山保全・再生活動に関する協定を締結
持続可能な天然ゴム調達に向けた、小規模農家支援プログラムを実施 ～農家の収益性向上に貢献～
「住友ゴムCSR基金」が2026年度助成を実施 ～社員の募金をもとに、地域に根ざした環境・社会課題解決活動を支援～
- 3月 – タイヤ・路面摩耗粉じんに関する6件の研究成果を「Tire Technology Expo 2026」で発表 ～発生・拡散・蓄積の3段階において科学的に検証～
- 1月 – カーボンメーカーのCABOT社と資源循環の取り組みで協業
- 12月 – サステナビリティ長期目標「はずむ未来チャレンジ」にイノベーション目標を新設 ～事業を通じた社会課題解決を加速～
「D&I AWARD 2025」において3年連続で最高位の「ベストワークプレイス」認定を取得
資源循環型カーボンブラックを一部乗用車向け量産タイヤに初採用、宮崎工場で生産を開始
CDP2025「気候変動」と「水セキュリティ」分野の最高評価Aリストに初認定
- 11月 – ゴルフボールの環境対応が飛躍的に進化、サステナブル原材料比率82%を達成した「スリクソン Z-STAR + e80」を開発
- 8月 – タイヤ・路面摩耗粉じんに対する取り組み成果を国内外の学会で発表
- 7月 – 資源循環型カーボンブラック採用タイヤを『2025 AUTOBACS SUPER GT』第4戦 GT300クラスに投入 ～三菱ケミカルとの協業成果を実装、今後一般用タイヤにも展開予定～
CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」において最高評価を獲得

2025

会社情報

弊社ウェブサイトよりご覧いただけます。

IRライブラリ	日本語	https://www.srigroup.co.jp/ir/library/
	English	https://www.srigroup.co.jp/english/ir/library/
ファクトブック	日本語	https://www.srigroup.co.jp/ir/library/factbook.html
	English	https://www.srigroup.co.jp/english/ir/library/annual-report/
決算短信 / 決算説明会資料	日本語	https://www.srigroup.co.jp/ir/library/financial-report/index.html
	English	https://www.srigroup.co.jp/english/ir/library/financial-report/index.html
⇒決算説明会のスクリプトも公開（日本語版：8月7日、英語版：8月10日）		
統合報告書	日本語	https://www.srigroup.co.jp/sustainability/information/download.html
	English	https://www.srigroup.co.jp/english/sustainability/report.html
コーポレート・ガバナンス報告書	日本語	https://www.srigroup.co.jp/corporate/governance.html
	English	https://www.srigroup.co.jp/english/corporate/governance.html
コーポレート・ガバナンス体制	日本語	https://www.srigroup.co.jp/sustainability/information/dvql4p000000yrnk-att/2026p54-67.pdf
	English	https://www.srigroup.co.jp/english/sustainability/dvql4p000000f222-att/2025p29-60.pdf
サステナビリティ経営の推進	日本語	https://www.srigroup.co.jp/sustainability/
	English	https://www.srigroup.co.jp/english/sustainability/

END



DUNLOP

WINTER
MAXX ICE Pro

極めつづけたものだけが、
プロになれる。

本資料に記載されている業績予想に関する記述は、当社及び当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、当社及び当社グループの事業を取り巻く様々な要因の変化により、記述されている業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。